

**三陸の海を放射能から守る**  
**岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**  
 郵便振替 02240-5-102650  
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
 《本紙の全バックナンバー掲載》

**止めよう!**  
**《再処理》**

**《天恵の海》**  
 2017(平成 29)年  
 9月 16日  
 第181号  
 編集事務局 S.Oshida  
 TEL・FAX 019-623-1636

# 東京電力 発表 クロダイからストロンチウム90 検出 かつてない高濃度



クロダイ (魚類図鑑より)

1 回目計測  
**27ベクレル/kg**  
 2 回目計測  
**30ベクレル/kg**

東電ホームページ  
[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/smp/2017/images3/fish03\\_170713-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f1/smp/2017/images3/fish03_170713-j.pdf)

**ベラルーシの基準を上回っている**  
**早急に小魚の測定を!**



コウナゴ

七月一三日東京電力ホールディングス(株)のホームページに『魚類のストロンチウム90測定結果』が掲載されました。注目すべきは「クロダイ」の項目です。木戸川沖合二ヶ所付近で本年一月二八日採取されたクロダイの骨と身全体から、二七ベクレル/kgと三〇ベクレル/kgのストロンチウム90が測定されたというのです。

これは、これまで測定されたことのない驚くべき高い数値です。クロダイは「チヌ」とも呼称され、沿岸砂泥地の海にすみ、ゴカイやウニ、貝類、シラス、コウナゴなどの小魚を捕食し生息しています。クロダイ自体は今のところ福島県沖の出荷制限魚種ですが、クロダイが捕食している小魚や貝類などにストロンチウム90の汚染があり食物連鎖によりクロダイに蓄積したと考えられます。広範な汚染が心配され対策が必要です。

【環境放射線データベース】での過去最高濃度は  
 ○・八五・一ベクレル/kg

日本の原子力施設周辺の海産物について、原子力規制庁『環境放射線データベース』から、ストロンチウム90の全試料を調べてみました。一九六九年〜二〇一六年までの七七四試料中、検出は一七二二試料(2・2%)です。最高濃度は佐賀県八田浦一九七八年六月二一日測定の藻類で0・851ベクレル/kgでした。三〇ベクレル/kgが如何に高い数値であるか分かります。\*私達の学習会では、原子力規制庁『環境放射線データベース』は、福島第一原発事故炉周辺海域は特別扱いで、「測定データの全てがアップされているのではないようだ」との指摘がありました。

離乳食に使用

このような数値が出ているのに、福島第一原発から十ヶ所〜二十ヶ所圏内で本年三月からコウナゴが、七月からシラスが全面禁漁から「試験操業」とされ、市場に出回り始めました。これらの小魚は離乳食に使われ、乳幼児がストロンチウム90を体内に取り込む恐れがあります。

ベラルーシの基準を大きく超えている

今やるべきは乳幼児の離乳食にもなるシラス、コウナゴのストロンチウム90の厳密、広範な測定作業です。ベラルーシのストロンチウム90の食品安全基準は**幼児用食品では一・八五ベクレル/kg以下**です。日本ではストロンチウム90の食品安全基準値は未決定です。

# 認定NPO法人

## いわき市民放射能測定室

### たらちねクリニックを訪問

八月二十五日、三陸の海・いわての会の二人で、訪問し、ストロンチウム90やトリチウムの測定について説明を受けました。簡略に報告します。



『たらちね』のホームページは  
<http://www.iwakisokuteishitu.com/index.html>

### いわき市小名浜、たらちねクリニックと測定室



常磐自動車道から下りていわき市内小名浜に入り、中心部の花畑町交差点にさしかかるとカネマンビルがあり、「たらちねクリニック」の標示塔がビルのてっぺんに立っていてすぐ分かりました。前もって連絡しておきました。広報担当者が丁寧に案内して下さいました。

### 設立の趣意書

#### 確かな事実から出発

設立の趣意をお聞きしました。「趣意書」には次のように書かれていました。

◇「原子力発電所の事故により放射能汚染下で不安な生活を強いられた市民自身が、より良くより強く生きていくために「市民放射能測定所」の設立が必要でした。不安の払拭はその正体を追い詰め、正しく認知するところから始まる。事実を見つめることなく曖昧で不誠実な言葉で取り繕うことは、目には見えないが確かな焼け野原に立っている私達には、もはや前時代のものではしかない。私達は地域住民とともに、被曝

の事実を一つひとつ確かめてゆくとところから始めます。」

### 二〇一一年から開始

◇設立は3・11福島事故直後から始まったといえます。二〇一一年五月、食材のセシウム134,137等の測定から始め、同年十月九日には正式に測定室として出発しました。

◇二〇一四年には、光電子増倍管装備の液体シンチレーションカウンタを導入し、操作技術習得訓練を行い、二〇一五年四月から、トリチウ

### 子供クリニックと測定室

二〇一六年には「子供クリニック・たらちね」を開所し、内科・小児科医が常駐し、診療活動や保健診療を開始。甲状腺検診プロジェクトは専門医ボランティアによって、年齢三才以上を対象に、日時を定めて福島県内及び隣県で巡回検診を行っています。「子供人間ドック」の機能も備え子供健康相談も行ってます。

## β線放射能測定

### ストロンチウム90

- ◆**メバルの骨** 福島原発沖  
2014年11月採取  
1.46Bq/kg 乾 不確かさ±0.09  
\*検出限界値 0.24Bq/Kg 乾
- ◆**メバルの骨**  
2015年9月6日採取  
1.92Bq/kg 骨乾 ±0.089  
\*検出下限値 0.24Bq/kg 骨乾
- ◆**お茶** 採取 原発南西 4.5km  
大熊町 2015年4月24日  
5.23Bq/kg 乾  
\*検出限界 0.41Bq/kg 乾
- ◆**しらす** 原発から南南西 110km  
茨城県 2015年7月28日  
検出限界以下  
\*検出限界 0.21Bq/kg 乾

### 液体シンチレーションカウンター



Hidex 300SL/SLL  
 フィンランド製の最新鋭の機械。  
 ストロンチウム90やトリチウムの測定に威力を発揮します。市民からの委託試料を測定します。

## 豊かな三陸の海を守る会 田村剛一会長逝く



龍昌寺での葬儀



在りし日の田村会長

## 共同代表制で運動を継続

六ヶ所再処理工場による海の汚染反対の運動を続けている「豊かな三陸の海を守る会」会長の田村剛一氏は昨年末以来体調を崩し、七月八日山田町で病没されました。享年七八才。

田村会長は二〇〇五年、同会の結成に関わり、会長に推され、以来一二年間に亘って運動を進めてきました。豊かな三陸の海を末代まで残そうとの呼びかけは多

くの住民の共感を呼び、「放射能海洋放出規制法」の制定を求めて国会や内閣への請願行動を行いました。さらに、自治体からの意見書提出を求めて県内全市町村議会を回り五年目には県内三五市町村中三四の議会が可決しました。「放射能汚染ストップ市民集会in宮古」は約四〇〇人も集まり全国的反響を呼びました。七月一二日、山田町

内龍昌寺での葬儀では、「守る会・共同代表」の菅野和夫氏が弔辞を読み、また、三陸大津波の直後、宮古市での同会主催講演会の講師を務めた作家の広瀬隆氏始め、全国から多くの弔電が寄せられました。

豊かな三陸の海を守る会は去る五月二八日、総会を開催し、運動の継承発展を図るため、横田有平前副会長や菅野和夫前事務局長など六人の共同代表を選出して新体制を整備しました。